



文化・芸術研究センター研究成果報告書 | 配分研究費：340千円

## 三遠南信の建築・産業遺産に関する横断的研究

### 目的・概要

遠州には優れた建築や産業遺産が点在し、中には三河や南信との繋がりにおいて生まれたものもある。その土地の風土を踏まえ、新妻が三遠南信の建築について、四方田が同地域の産業遺産について地域横断的な研究を推進する。具体的には、三遠南信の建築や産業遺産の現地調査をベースとするが、点在する遺産を歴史・文化・産業という横断的視点でも研究を推進し、三遠南信の優れた建築・産業遺産を社会に発信する基礎を作る。

### 期間

令和3年4月1日～令和6年3月31日

### 研究担当者

文化政策学部 文化政策学科 教授 四方田雅史（研究代表者）  
デザイン学部 デザイン学科 准教授 新妻淳子

### スケジュール

|                     |                                               |
|---------------------|-----------------------------------------------|
| 令和3年～5年<br>令和5年10月～ | 三遠南信の産業遺産、和風建築の現地調査<br>三遠南信の国・県・市町村の文化財リストの統一 |
| 令和6年1月～             | 研究成果の論文化                                      |

### 研究成果

代表者の四方田は三遠南信地域、特に現時点で経済や産業が発展しており近代以降の産業遺産もあると推測される南三河、南遠、南信北部ではなく、三遠南信の紐帯になり得る中心部、つまり北三河、北遠、南信のまた南部の忘れられてきた産業遺産を掘り起こし分析する作業を行った。具体的には、この地域の「なりわい」であった養蚕、林業、そして物流・人流の媒介となった天竜川・豊川水系や鉄道、そこでの水力発電などの遺構を実地調査した。

次に共同研究者の新妻は、建築の観点から三遠南信の各市町村にある建築、特に国・県・市町村の文化財になっている和風建築群をリスト化することにより、各レベルで情報が分散している文化財リストの統一を試みた。具体的研究として、江戸時代中期を起源とし諏訪を本拠に活躍した彫刻集団である諏訪立川流に着目し、彼らが秋葉山を契機に遠州、豊川稻荷など三河の寺社建築に影響を及ぼしてきた実態を明らかにしている。また、天竜川を軸に展開された木材流通と生活文化にも着目して調査を実施した。

最後に、特に三遠と南信州の関係は現在相対的に弱まっているものの、近世、近代においては、三遠南信中心部は経済的に繁栄し、その間の交流も盛んであったことを、それぞれの視点から明らかにできたと思われる。



### 今後の研究成果の還元方法

四方田、新妻ともに本学の紀要に、本研究テーマに関連する論文を2編それぞれ掲載することにより、まずは昨年度まで受けた研究費に対する責務を果たし、研究成果を広く通知したい。そしてそれらの成果をまずは各教員の授業などに還元するとともに、それらの論文をブラッシュアップさせつつ、出版助成などを通じ出版していくことも今後の検討課題としたい。